

**砺波総合病院**  
から

消化器科  
稲邑 克久

市立砺波総合病院  
☎32-3320

病院のホームページもご覧ください。

## 超音波内視鏡下 吸引細胞診(EUS-FNA)について

はじめに

国立がん研究センターの統計によれば、がんで亡くなる方は男性なら4人に1人、女性で6人に1人、がんにかかる方は男女共2人に1人となっています。中でも内視鏡が関与する消化器領域（食道、胃、大腸、胆道、膵）のがんは全体の半数以上を占めており、内視鏡診断及び治療の重要性は増えています。

これらのがん診療において、超音波

内視鏡下吸引細胞診（以下、EUS-FNA）は極めて有効な診断方法です。2010年に保険収載され、当院では2012年に導入し、膵がんのみならず胃粘膜下腫瘍や原発不明がん、悪性リンパ腫の診断を可能としました。

### EUS-FNAの有用性について

胃や大腸の表面にできるがんであれば、内視鏡で観察しつつ病変を採取し病理診断※が可能です。しかし、粘膜よりも深い位置にある腫瘍や、そもそも胃壁外にある膵臓やリンパ節、副腎などに関しては全く手が出せませんでした。そのため、どうしても診断のために必要な場合は全身麻酔下に外科的に開腹していました。しかし、診断のためだけにお腹を開けることはかなり負担になるため、できれば避けたいところです。その悩みを解決してくれたのがこのEUS-FNAという手技になります。

※病理診断：病変の有無や種類について診断すること。

### EUS-FNAの実際について

図1のように内視鏡の先端部に超音波装置が取り付けられています。これで病変を図2のように見ることができ、病変を見つけた後に図1のように針を出して病変を採取することにより、病理診断が可能となります。また、当



図1

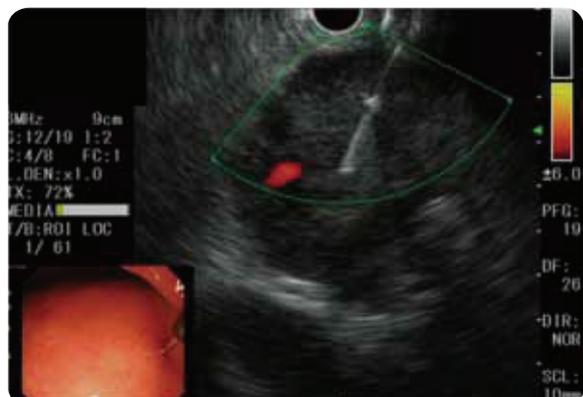


図2

院には優秀な細胞検査士が在籍しており、検査時に検体が十分とれたかどうかその場で判断できるため、複数回検査しなくてはならないことは少なくなっています。ちなみにこのEUS-FNAが標準的に行われている施設は

富山県内では富山県立中央病院、富山大学付属病院と当院の3施設で、呉西地区では当院のみとなっています。

### EUS-FNAの成績について

2012年9月から超音波内視鏡（EUS）を40件施行しました。うち穿刺吸引（FNA）施行は16例で、確定診断可能であったのは11例でした（正診率69%）。正診率はまだ十分とは言えませんが、悪性リンパ腫やがんのリンパ節転移及び副腎への転移や腎がんの膵転移などを診断できており、全体として診断能は向上しています。また、悪性を疑われ手術となる場合が多い腫瘍形成性膵炎も診断し開腹手術を回避できています。なお、偶発症は出血が1例（6.3%）に認められましたが、貧血や腹痛は認めず、安静のみで回復しています。

### 最後に

EUSを用いた治療手技なども発展中であり、これから伸びていく分野です。また、内視鏡診療はがんの患者さんが増加傾向となる今後ますます重要になります。

最先端の技術をいち早く日常診療に取り入れて、市民の皆さんにその恩恵を受けていただきたいと思います。